

ニワトコ

【 *Sambucus racemosa* ssp. *Sieboldiana* 】

科名 ガマズミ科

属名 ニワトコ属

薬効・用途

葉（接骨木葉 セッコツボクヨウ）、幼茎（接骨木 セッコツボク）を利尿薬とし、又葉茎の煎汁は骨の折傷、挫傷に罨法料とし、蕾（接骨木花 セッコツボク力）は発汗薬にする。髄は顕微鏡観察用の切片をつくるのに用いる。



・花期：3～5月

備考

落葉低木。北海道～九州の山野に普通に生える。変化が甚だ多い。和名は、薬用として庭に常に植えられていることから、「庭常」と呼ばれるようになったとの説や、古く「ミヤツコギ（造木）」という名前から転訛したとの説もある。別名「接骨木（せつこつぼく）」という。両性花。